

被爆・終戦80年を迎えて ～「平和の使徒」としての固有の使命のために～

広島教区 アレキシオ白浜満司教



幟町教会での司牧訪問（6月8日聖靈降臨の祭日）
ミサの中で信者に堅信を授ける白浜司教

はじめに
2025年（通常聖年）の復活祭の翌日・4月21日の朝、前教皇フランシスコが帰天されました。在任中、2019年11月24日に、被爆地の長崎と広島を訪問され、世界の平和、とくに核兵器廃絶を強く訴えられた教皇でしたので、わたしたちは、そのご逝去に深い悲しみを覚えました。その後、5月8日の教皇選挙（コンクラン）で選出されたレオ十四世も、

愛する兄弟姉妹の皆さん。これが、神の民のためにいのちを与えた、よき牧者である、復活したキリストの最初の挨拶です。わたしもこう望みます。この平和の挨拶が皆さん的心に入りますように。皆さん家庭に、どこにいたとしてもすべての人々に、すべての民族に、すべての地に届きますように。あなたがたに平和があるように。

これが復活したキリストの平和です。謙遜で、忍耐強い、武器のない平和、武器を取り除く平和です。この平和は神から来るものです。神はわたしたち皆を無条件で愛してくださいま

新教皇の最初のメッセージ
「あなたがたに平和があるよう。」
愛する兄弟姉妹の皆さん。これが、神の民のためにいのちを与えた、よき牧者である、復活したキリストの最初の挨拶です。わたしもこう望みます。この平和の挨拶が皆さん的心に入りますように。皆さん家庭に、どこにいたとしてもすべての人々に、すべての民族に、すべての地に届きますように。あなたがたに平和があるように。

前教皇フランシスコと同じように、世界の平和を切望されています。選出直後の最初の挨拶の際に、新教皇レオ十四世が発せられたメッセージを心に刻みたいと思います。

広島教区報

No. 141
カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
瀧井英昭神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区幟町4-42
広島司教館内
TEL (082) 221-6017

司教メッセージ・じゃけえのう
教区の動き・2025平和行事
幟町書院 オリーブの樹
J-CARM広島便り・うちのイチ押し
地区便り・海峡からの風・青少年・ひと粒

1~3面
4~5面
6~7面
8~9面
10~12面



「じゃけえのう」とは広島弁で
「だからね!」という意味。

の「家族」であることを実感しています。

また、鳥取教会は外国人信者の方も多く、復活祭や

クリスマスのパーティーでは、多国籍な料理が並び、

子どもも大人も一緒にになって賑やかに喜びを分かち合

います。そのような「多様性に満ちたあたたかさ」

も、私たちの教会の大きな恵みだと感じています。

これからも鳥取教会で、子どもたちと共に信仰を育

みながら、支えあう、祈り

あう歩みを続けていきたい

です。この場所で与えられ

ているつながりと恵みを、大切にしながら。

（鳥取教会 山根心）

その姿に教会全体がひとつ

ときには一緒に遊び、ときには静かに祈つてくださる

教会の皆さんが、子どもたちを温かく見守り、支えてくださっていることです。

教会の皆さんが、子どもたちを温かく見守り、支えてくださっていることです。

これからも鳥取教会で、子どもたちと共に信仰を育

みながら、支えあう、祈り

あう歩みを続けていきたい

です。この場所で与えられ

ているつながりと恵みを、大切にしながら。

もはやありません。わたしたちは皆、神のみ手のうちにあります。それゆえ、恐れることなく、神と、また互いに手をつないで、前に進んで行きましょう。わたしたちはキリストの弟子です。キリストはわたしたちに先立つて進んでくださいます」（「新教皇レオ十四世の最初の祝福」カトリック中央協議会のホームページより）。



きらめない」というテーマで、平和行事が行われます。平和行事実行員会の委員、種々の形で協力してくださる方々、参加してくださいと、さる皆さんに、心から感謝したいと思います。

今年は、8月5日の午後一時から、世界平和記念聖堂に隣接するエリザベト音楽大学のセシリニアホールを会場として、被爆者団体（日本被団協、広島被爆者7団体）と日米韓の司教有志との平和集会が予定されています。被爆80年にあたって、高齢化し減少していく被爆者の思いを引き継ぎ、「核兵器廃絶のための協働をめざして」というテーマで、日米韓の力トリック教会がどのように「ともに歩む（協働する）」ことができるのかについて、意見交換をする予定です。通訳付きで、どなたでも自由に参加できますので、多くの方々にお越しいただければ幸いです。

て、それぞれ平和メッセージを発信してきました。そして終戦80年にあたつて、今年六月に開催した定例司教総会において、「平和を紡ぐ旅—希望を携えて—」というタイトルのメッセージを採択しました。さらに、日本の司教団は、国際法となつた「核兵器禁止条約」(TPNW)への、一日も早い署名批准を日本政府に働きかけるため、「日本カトリックリック司教団・核兵器廃絶宣言2025」を採択しました。これら二つのメッセージは、カトリック中央協議会のホームページに掲載されています。これらの文書を読み、学びながら、わたしたちは被爆地の教区として、「平和の使徒となるう」という固有の召命を生きるために祈りと活動を、これからも紡いで行く決意を新たにしたいと思いまます。

広島教区のチャレンジ
【平和行事】

日本のカトリック教会では、毎年8月6日（広島・原爆の日）から15日（終戦の日）までを「平和旬間」と定めて、日本の各教区において、平和の実現のための祈りや活動をおこなっています。世界で最初の被爆地・広島に司教座聖堂（カーテドラル）をもつ広島教区では、毎年、8月5日と6日（広島・原爆の日）、9日（長崎・原爆の日）に合わせて、平和祈願や原爆犠牲者のためのミサと種々の行事に力を注いでいます。

また、一年の他の時期に、平和のための祈りと活動を広げて行くことも必要です。そのために、広島教区の各地区では、教皇ヨハネ・パウロ二世（1981年2月）、あるいは教皇フランシスコ（2019年11月）の来広を記念して、いずれかの月に、平和について考え方び祈る機会を設けています。ただ、これらの行事を企画し実施してくださる信徒の方々の高齢化が進み、その担い手を育て

ていくことが、今後の大きな課題の一つとなっています。より多くの、とくに若い世代の方々が「平和を実現する人々は、幸いである、その人々は神の子と呼ばれる」（マタイ5・9）という、イエス様の呼びかけに応えてくださるよう期待したいと思います。

びかけに民間の立場から応えて行くため、その翌年・被爆75年（2020年7月7日）に、被爆地の二つの教区（広島と長崎）が、民間の平和団体（ANT-Hiroshima、核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）、核兵器廃絶地球市民集会ナガサキ）の代表者の方々と一緒に立ち上げたのが、「核なき世界基金」です。この基金は「被爆75年から5年間のチャレンジ」を目標に、①「核兵器禁止条約」の批准拡大を後押しする活動の支援、②世界の核兵器由来の放射能被害者の支援と放射能汚染からの環境回復の支援、③核兵器廃絶を目指す活動の支援という、おもに三つの目的のために募金を呼びかけています。

カトリック教会内外の支援者のご協力のもとに、この5年間に平均して毎年約400万円のご寄付（累計で約三三六〇万円）をいただき、毎年一〇〇万円の積み立てを継続し、3つの目的にかなう活動のために毎年約三〇〇万円の支援を実施しました。その結果、5年間の累計で50件（約一五三〇万円）の支援を実施し、そして、五〇〇万円の積立金があります。これらの基金の具体的な活動報告が、「核なき世界基金」のホームページ上でなされています（<https://nuclear-free.net/>）。この基金の本部事務局は「核なき世界基金」を支援する会・広島本部という名称ですが、実質的には教区本部事務局の職員が、その事務作業を受け持つてくださっています。

基金の今後のことについて各方面にご意見を伺つたところ、平和活動を行つている諸団体から、基金の継続を希望する声が複数上げられました。また、現在、「核兵器禁止条約」の締約国間で、国際信託基金の創設の検討がなされていますので、積立金の今後の適切な使途を見極めるためにも、さらに被爆80年まで5年間の募金活動の延長を、日本カトリック司教協議会の今年六月の常任司教委員会に申請し、延長が許可されました。

これまで基金の活動に協力してくださった支援者の皆さんは、引き続きご支援とご指導をお願いしたいと思います。

【核兵器のない世界のためのパートナーシップ】
教区創立百周年にあたつていた2023年8月、アメリカ合衆国・ニューメキシコ州の（管轄区域内に、広島と長崎に投下された原爆が開発・製造されたロスアラモス国立研究所がある）サンタフェ大司教区のジョン・ウェスター大司教（管轄区域内に、アメリカ合衆国内で最も多く核兵器が配備されている）シアトル大司教区のポール・エティエン大司教様をはじめ、合計9名の平和巡礼団が来日され、8月5日～8月6日に広島で、8月7日～9日に長崎で、それぞれ平和行事に参加されて、原爆・戦争犠牲者のため、また世界平和のため、ともに歩

祈りをささげてくださいました。

ジヨン・ウェスター大司教様とポール・エティエン大司教様は、「核兵器のない世界」の実現を目指して、被爆地である広島・長崎のカトリック教会と連携していくことを強く望まれ、日米の（上述の）四教区の司教レベルで、「核兵器のない世界のためのパートナーシップ」をまず樹立しました。そして、司祭、修道者、信徒の皆さんにも詳しい説明をして理解を求め、このパートナーシップへの参加をお願いして行くことにしました。その後、一年間かけて準備が進められ暫定的な規約も作成され、昨年2024年8月には、このパートナー・シップへの参加・賛同の呼びかけを、ホームページ（<https://pwnw.org>）上で開始しました。このパートナーシップは、2019年11月24日に広島で、教皇フランシスコが核兵器廃絶に向けた心構えとして強調された「思い起し、ともに歩み、守る」という三つの倫

教区の動き

2025年度（第一回）

広島司教区宣教司牧評議会開催

2025年度第一回広島司教区宣教司牧評議会（以下、教区宣教司評）がリモート会議形式と併用で開催された。白浜司教、修道者、信徒の24人が出席した。会場の広島カトリック会館多目的ホールには出席評議員の過半数の16人が集い、その他8人はリモート接続して予定通り会議を開始した。

教区宣教司評は、大西神父の聖書朗読、白浜司教の挨拶と祈りに続いて評議事項から始まった。

評議事項では、次の各評議内容の説明と評議員による意見交換が行われた。

まず百年史編纂委員会から教区百年史の発刊に向けて最終段階に入っている状況の報告があった。現在、

去る6月14日（土）、2025年度第一回広島司教区宣教司牧評議会（以下、教区宣教司評）がリモート会議形式と併用で開催された。白浜司教、司祭、修道者、信徒の24人が出席した。会場の広島カトリック会館多目的ホールには出席評議員の過半数の16人が集い、その他8人はリモート接続して予定通り会議を開始した。



平和の使徒となろう

平和の使徒推進本部

トリック教会の動向に関する事項をまとめたものを作成し、各教会役員（信徒リーダー）の方に理解を深めもらうため。また将来、

ハンドブックを用いた研修会などを企画する

また次回開催予定の第3回「宣教ひろば（2026年2月23日）」のテーマや内容について意見収集が行

われた。テーマについては、世界シノドスの最終報告（邦訳）の内容も視野に入れて9月までに決定する予定のこと。

次に「臨時の聖体奉仕者養成講座」について意見収集が行われた。意見収集の趣旨は、小教区で外国籍の信徒の割合が多くなっている現状において、聖体奉仕者養成のための外国语版ティキストの必要性や、講座が行われる場所に外国籍の信

徒が集う場合の移動距離などの課題を検討するため。今後、課題改善のための原案を作成し、次回の教区宣教司評に提示する方向とのことです。次に「教会役員向けハンドブックの作成および研修会の企画」についての提案が平和の使徒推進本部の傘下である「シノドス対応調整チーム」から示された。ハンドブック作成の目的は、普段知ることの少ない広島教区全体、日本や世界の力

トリック教会の動向に関する事項と報告があつた。目的と意図は既に教区顧問会で承認されているとのこと。信仰の始まりの多くは誰かとのふとした出会いにあり、サビエル・フェスター（通称・サビフェス）の説明と報告があつた。目的と意図は既に教区顧問会で承認されているとのこと。信仰の始まりの多くは誰かとのふとした出会いにあり、サビフェスがその誰かと教会の「橋をかける場」になることを願っているとのことです。

評議事項の最後は、「世界シノドスの取りまとめ計画」について、最終文書の公式邦訳が発出され次第、

その取りまとめをシノドス対応調整チームで行うことを確認した。

教区宣司評の後半は報告事項が行われた。

まず各地区・教区修道女連盟から報告があった。教区修道女連盟からは、研修会を計画中であること、

「10週間祈りの旅」の同伴者としての奉仕をシスターたちが各地で喜びをもつて協力していることが報告された。

続いて平和の使徒推進本部から「2025聖年」企画の助成金申請および助成状況についての報告、更に「正義と平和推進デスク」および「ラウダート・シデスク」からの報告に続いた。正義と平和関連の詳細は教区ホームページおよび

信で確認して欲しいとのことで、特に署名活動「『外国人居対人基本法』と『人種差別撤廃法』『難民保護法』の制定を

聖書通読写経キャンペーン 完了者紹介（敬称略）

◆聖書通読を完了された方◆
No.023 野崎 綾 橘町教会
No.024 上野敦子 岡山教会

◆新約聖書写経を完了された◆
No.037 下崎孝子 宇部教会

聖書の通読、写経キャンペーンは継続して行っております。ぜひ個人で、グループで、家族で、取り組んでみてください。



求める国会請願書」に理解と協力を願いしたい。
(2026年1月〆切)

報告事項の最後は「2025平和行事」に関する案内があった。

以上のことが話し合われ、祈りと祝福のうちに三時間の教区宣司評を閉会した。

なお、次回（2025年度第二回）教区宣司評は、12月13日に開催予定。

本記事に関するご質問などは平和の使徒推進本部まで。

（平和の使徒推進本部）

2025 平和行事

原爆投下80年平和への希望をあらたに
～核廃絶をわたしたちはあきらめない～

●8月5日(火) 13:00～

被爆者団体と日米韓有志司教の平和集会
「被爆80年 核廃絶のための協働をめざして」
平和祈願ミサ



●8月6日(水) 8:00～

原爆とすべての戦争犠牲者のためのミサ
カトリックユースプログラム
日米カトリック大学 学術シンポジウム
8・6キリスト者平和の祈り
原爆犠牲者のためのスピリチュアルコンサート

●8月9日(土) 11:00～

長崎・原爆犠牲者のためのミサ
カトリック広島司教区 平和行事実行委員会
会場：世界平和記念聖堂・エリザベト音楽大学セシリヤホール他

MAP



WEB



2025平和行事のポスターとプログラムの詳細

8月5日に行なわれる行事の様子はYouTubeでご覧いただけます。詳しくは広島司教区ホームページ <https://hiroshima.catholic.jp/> の平和行事の案内をご覧ください。

広島教区 2025 平和行事プログラム

期 日：2025年 8月 5日(火) 6日(水) 9日(土)

場 所：エリザベト音楽大学 セシリヤホール 世界平和記念聖堂

テーマ：「原爆投下80年 平和への希望をあらたに～核廃絶をわたしたちはあきらめない～」

8月5日 (火)

①13:00～15:30

*ライブ配信有 エリザベト音楽大学 セシリヤホール

被爆者団体と日米韓有志司教の平和集会 「被爆80年 核兵器廃絶のための協働をめざして」

・初めの挨拶

・日本被団協のノーベル平和賞受賞の祝賀式

・被爆者と司教たちからの提言

・共同声明の発信

・記者会見

②16:00～17:30 平和祈願ミサ *ライブ配信有 *手話通訳付き

世界平和記念聖堂

被爆・終戦80年あたり、駐日教皇大使、米国・韓国からも来られた枢機卿・司教様をはじめ、全国から集う人々とともに、戦いの道から遠ざかり、対話を通して国際的な協調の道を選択し、恒久的な世界の平和を築きあげていく恵みを神に願い求めましょう。とくに、現在、世界各地で続いている戦争や紛争の早期終結のために祈りましょう。

③18:30～19:00 平和のための祈りの集い (日本聖公会との共催)

原爆供養塔前 (平和記念公園内)

原爆供養塔の前で、戦争・原爆の犠牲者の永遠の安息、および今なお戦争・紛争などで苦しんでいる人たちのために祈り、日常生活の中で、非暴力(対話を)による平和の構築を大切にする決意を新たにします。

◆ノートルダム清心中・高等学校ボランティアによる聖堂案内

集合場所 大聖堂入口

8/5(火) ①11:30～12:00 ②15:30～16:00 8/6(水) ③9:15～9:45

8月6日 (水)

①6:15～7:15 戦災供養会主催 宗教者平和の祈り

原爆供養塔前 (平和記念公園内)

原爆犠牲者の安息を世界の平和のため、仏教・神道・キリスト教の宗教者がともに集い祈りをささげます。

②8:00～9:15 原爆・すべての戦争犠牲者のためのミサ *ライブ配信有 *手話通訳付き

世界平和記念聖堂

被爆・終戦80年あたり、原爆や戦争で犠牲になられた方々の永遠の安息と、世界の平和を祈りましょう。

③10:00～12:00 【カトリックユースプログラム】*要申込：詳細は2025平和行事HPに掲載 マリアホール

「Catholic Voices for Peace ～世代をこえて、語り合う～」 松浦信郎司教(名古屋教区)

④13:00～15:45 日米カトリック大学・学術シンポジウム

エリザベト音楽大学 セシリヤホール

⑤15:00～16:30 8・6キリスト者平和の祈り

日本基督教団 広島流川教会

*被爆証言：小倉桂子さん (日本基督教団 広島牛田教会 会員 2023 G7広島サミットにて被爆証言)

⑥18:00～原爆犠牲者のためのスピリチュアルコンサート

世界平和記念聖堂

REQUIEM(フォーレ作曲) *エリザベト音楽大学同窓会

8月9日 (土)

「ながさき平和の日」

○11:00～12:00 長崎・原爆犠牲者のためのミサ *手話通訳付き

(世界平和記念聖堂・地下聖堂)

どうなった?
何がある?
ちょっとキになる
オリーブの樹へ
GO!



よもやまオリーブの樹

どうやらサンパウロが来てくれるらしい?!との噂が広がっても、何の進展もないままだった3月8日、「10日から工事が始まります」と突然の一報が入りました。まだオープン日も決まらないまま工事が始まりあれやこれや、あたふたとしたまま、今日は、あたふたとしたまま、今日にいたっています。

サンパウロはシステムとアイテム、教区は経費とスタッフとのことでしたが、財政上、専従スタッフを望むべくもなく、青年活動企画室と教区本部事務局の職員がそれぞれの本業に加えて、その任にあたることになりました。慣れない業務と予想以上の作業量に振り回されてしまい、遅々として進まない本業に税理士さんも頭を抱え、神父様からのメールもスルー…。それでもみなさまからの「ここがあつて嬉しい。ありがとう。」の言葉を支えに何とか頑張っています。また、日曜担当のボランティアグループにも支えられています。

最近では、近くの大学生がふらつと寄つて立ち読みしたり、修道院製のお菓子を求めて幼稚



Point 4

聖堂オリジナルグッズ

国の重要文化財でもある世界平和記念聖堂オリジナルグッズはお土産にもってこい！すべて聖堂保存のための献金となります。いつもあたたかいご協力ありがとうございます。



Q お休みは？

A 水曜日、木曜日と祝日です。

Q オープン時間は？

A 10時から16時です。
(日曜日は9時半のミサ後～15時です)



最新のお知らせは
↓↓↓こちらから



@OLIVETREE_HIROSHIMA

Point 3

修道院のお菓子

全国津々浦々の修道院からとどく素朴で優しい味のお菓子。外国の修道院からの珍しいオイルやパテ。中国地方初お目見えが盛りだくさん！1つ1つ手作りなので入荷がまちまち。見つけた時が「その時！」です。



ロザリオやメダイ、御絵をはじめ、お香やロウソク、聖句をあしらったかわいい雑貨もめじろおし。好き！が見つかる楽しさです。



Point 1

書籍

聖書はもちろん、絵本や話題の1冊。「毎日のミサ」「家庭の友」など今ほしい！に出会えるラインナップです。



Point 2

聖品・聖具



カレンダーや手帳は
10月頃登場



まよっちゃん～



法人会計 大本聖美

たいと思います。
レジでまだまだピピーとエラ
ー音を響かせてしまう私たちで
すが、どうぞ、あたたかい目
(とお財布!...)で応援してい
ただければ幸いです。

園帰りの親子さんや地域の方、ランチ帰りの会社員が寄つてくださるようになつてきました。少しは親しみを感じてもらえているのか、「入つていい場所と思わなかつた。」と言われる方々が聖堂に入つてみたり、お庭で休んだりしている姿を見ると嬉しくなります。

オープン記念に司教様が植えられたオリーブの品種は、奇しくも「ミッショーン」。宣教の場として、どんな人にも大切な場所であつてほしいと言われた司教様の思いを忘れないようにしたいと思います。

レジでまだまだピピーとエラー音を響かせてしまう私たちですが、どうぞ、あたたかい目(とお財布!...)で応援していただければ幸いです。

○ J-CaRMユニティー 岡山・鳥取地区における
外国人移住者への宣教的アプローチ 津山教会 ジョン・ボルドン神父

- 私は宣教司祭として岡山鳥取地区に派遣されたことを、大変光栄に思います。神への愛と感謝のうちに、私はイエス・キリストの希望と喜びの物語を伝える使命を受けています。宣教師としてイエス・キリストに従い、神が宣教の目的を実現するために私を日本に遣わされたと信じています。イエスの喜びの物語を証しし、伝えることを使命としています。
- 兄弟姉妹のみなさん、私は宣教師として、またキリストに従う者として、どのように行動し、どのような人間へと成長していくべきかを自らに問いかけなければなりません。私は愛に生きるように求められているからです。愛を生きる牧者とは「近づきやすく、目に見える存在」であることです。これは私の司牧活動において、最も重要なことの一つです。
- 司祭として大切なのは謙虚さです。謙虚な心は、神との深い出会いへと私を導き、イエスの深い愛で満たしてくれます。この世における名誉や権力、称号などは私の手柄ではなく、すべて神からものです。私には誇るべきものはありませんが、神の手によって造られ、聖なる者、愛にあふれたとものとして生きるように創造されています。
- 聖パウロはフィリピの信徒への手紙で、イエスの謙遜さを「ケノーシス（自己を無にすること）」として語ります。「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした」（フィリピ2・6-8）。この一節は、謙虚さが神への従順の証であることを教えてくれます。イエスの姿は、私が模範とすべきものです。
- 宣教は、まず「聞くこと」から始まります。聞くことは、非常に重要で最良の言語である「心の言葉」を使います。私は人々に奉仕するために派遣され、その使命は常に愛の精神に根ざしています。だからこそ宣教は愛であり「すべての人に福音を伝えるために喜んで尽くしあう」という愛の精神を生きています。
- これからも皆さまとともに、この広島教区において神の愛を宣べ伝えることができますよう、お祈りください。宣教の使命を胸に、喜びのうちに奉仕していきます。



ジョン神父が主任司祭として赴任している津山教会

2025年第43回平和祈願ミサ

～永井隆博士を偲んで～

今年は戦後80年にあたります。

博士の「如己愛人」の精神に学び、ともに平和のために祈りましょう。

日 時: 2025年11月24日(月・振休) 10:00~13:00

場 所: 島根県雲南市三刀屋町永井隆記念館

主 催: カトリック広島教区

伯雲協働体(カトリック米子・松江・出雲教会)

プログラム

10:00 開会・来賓の挨拶

10:15 平和祈願ミサ

12:00 講演 生い立ちの家

講 師 ボランティアガイド 須山弘二氏

テーマ『永井隆さんとふるさと飯石村』

13:00 閉会

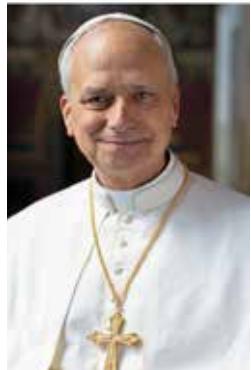
問い合わせ先: カトリック米子教会

TEL 0859-22-6340 FAX 0859-35-9870

JCaRM広島便り



(左) 教皇レオ14世 (右) 住田神父(イエズス会)

レオ十四世
第267代教皇に選出

5月8日、ロバート・フランシス・プレヴォスト枢機卿が、第267代目の教皇に選出され、レオ十四世と名乗りました。

レオ十四世は、聖アウグスチノ修道会の修道者で、米国出身者としては、初めての教皇となります。

また、アウグスチノ修道会の総長やペルーで教区司

教として務めておられたこともあり、教皇に選出される直前までバチカンの司教省長官を務められています。

教皇レオ十四世は、かつて、2018年11月24日に長崎で行われた、ペトロ岐部と187殉教者の列福ミサに参加するために聖アウグスチノ修道会の総長として参加されていました。

第267代教皇レオ十四世
(ロバート・フランシス・
プレヴォスト)

1955年9月14日、アメリカ合衆シカゴ生まれ69歳。聖アウグスチノ修道会出身。前教皇厅司教省長官、ペルーチクラヨ名誉大司教。



列福ミサ 退堂の様子



麦の刈り入れ

秋に種をまき、芽が7cmほど伸びた冬に麦踏みを行います。子どもたちに元気に踏まれて強くなつた麦は、すぐすくと育ち、春には黄金色の穂を実らせ、よいよ麦刈りの時期を迎えます。キッチンバサミを使うと、簡単に刈り取ることができます。

前日、生地を作つて絞り出し、クッキングシートの上から指で押し

て丸く形作ります。シートごと鉄板で挟みます。



完成したホスチア

大地の恵み、労働の実り

うちの教会学校では、聖堂横の六畳ほどの畑で麦を育てています。

秋に種をまき、芽が7cmほど伸びた冬に麦踏みを行います。子どもたちに元気に踏まれて強くなつた麦は、すぐすくと育ち、春には黄金色の穂を実らせ、よいよ麦刈りの時期を迎えます。キッチンバサミを使うと、簡単に刈り取ることができます。

前日、生地を作つて絞り出し、クッキン

グシートの上から指で押し

て丸く形作ります。シートごと鉄板で挟みます。

ひとつはホスチアで

す。キリストの聖体の

2つのものを作ります。

地区便り

チックに変わりました。終日、織細な採光で聖堂の空間を優しく癒してくれます。

ぜひお越しください。隣接の信徒会館ラウンジにて、ひと時をお過ごしください。コーヒー一杯の自由献金をお願いしますね。

信徒代表 近藤

山口島根地区

*細江教会 新発見



細江教会のステンドグラス

旧聖堂の解体時、ステンド

グラスを再利用し新聖堂の正面に移築しましたが、実は新たに発見がありました。このガラス素材はダル・ド・ヴェール（フランス語）と呼ばれていて、厚さ25ミリくらいのガラスを碎いた特殊技法が駆使され、手間もかかるので、最高級の素材といわれており、かなりの価値があるそうです。日照時の光の変化で、通過する光の乱反射がとても美しく、重量感があり、他に類を見ない存在感とあります。ある意味ではモザイク的な芸術作品とも言われているそうです。今まで埋もれていた光の表現が、本当にドラマ



津山教会の空き地（教会南側）

岡山鳥取地区

*教会菜園はじめます

津山教会聖堂の後ろには、長年利用されていない広い土地（駐車場なら10台分位）が有ります。

現在は実の生らないオリーブと枇杷の木等が植えられているだけで雑草に覆われています。最近その土地で菜園をしたいとベトナム共同体からの申し出がありました。神父様とも相談し、教会の菜園として皆で協力し合おうという事になりました。

まずは草取りと土おこしです。肥料

も野菜の種も苗も用意します。秋ごろには収穫できるのを楽しみにして行きたい

です。まずは草取りと土おこしです。肥料も野菜の種も苗も用意します。秋ごろには収穫できるのを楽しみにして行きたい



下関労働教育センターだより

北九州で抱樸さんと共に行動している夜の焼き出しには、生活に困窮する人々が増えている。彼らとボランティアが食事を共にし、安心して語り合える場を作りたいという願いから、関門ネットの仲間とともに「つながりキッチン」が5月にスタートした。焼き出しの時には笑顔のないおじさんが笑いながら食事を楽しむ姿を見て、この活動の意味を実感した。

6月にローマで行われる会議のためにイタリアに渡った。イエズス会の難民移住ネットワークの各地域コーディネーターたちが集まり、世界全体のネットワークとしての計画を作るのが目的だ。私は4年間の担当者としての活動報告をしながら、自分の小さな働きにも世界に貢献する意味がある感謝の心で振り返ることができた。中でも印象的だったのは、コロンビア出身の女性コーディネーターの言葉だつた。植民地主義や暴力の歴史を背景に「私たちには声がある。私たちがいくら声を発しても聞いてくれないのはあなたたちではないか。私は背中にいるたくさんの仲間たちの声を伝えよう」と一生懸命言葉を学んで今は五ヶ国語を話している。声の

ない人に声を与えるつて？違う。私たちは声を持っているんだ！」と語り、支援の在り方に深く考へさせられた。

私は在日朝鮮人の存在を思い起しながら、難民移住支援に必要があると分かち合つた。会議後に彼女のオフィスを訪ね、その存在がいかに大切だったことを伝えると、彼女も私の指摘に共感を示してくれた。今後もこうした視点を忘れずに活動していくたいと思った。

滞在中、是非訪れたかったアッシジを訪れる、上智大学で一緒に神学を勉強したフランスコ会のホアイ神父さんがあたかく迎えてくださった。フランスコ会員に交わり、聖フランシスコが、キリストの苦しみに近づいたいと、山に40日こもって聖痕を受けたラヴエルナにも連れて行ってくださいた。

被造物を兄弟姉妹として賛美するその心とキリストの受難はどういう疑問に、繋がるのかと、滯在中の外山神父が「三位一体のまなざしで見る」と助言してくれた。この言葉がこれらの活動の指針となる言葉となつた。

（中井淳神父）

広島地区

*2025年度広島地区

召命祈りの集い

4月26日（土）、カト

リック観音町教会で広島地区召命祈りの集いが実施されました。

白浜司教様と、8名の神父様方が参加してくださいり、100名を超える信徒が集まりました。

全員で「栄えの神秘」を口ザリオを繰りながら召命のために声をそろえて祈りました。その後、「私が考える召命とは」と題して、伊藤神父様の講話がありました。その中で、「召命とは司祭、修道者だけではない、個人の信仰生活を他の人に証していくタレントを持つことも召命だ」ということを話されました。配布された『JP通信』を元



伊藤神父



聖母祭の様子（世界平和記念聖堂）

*聖母幼稚園の聖母祭

5月17日（土）18時半から、世界平和記念聖堂で、聖母幼稚園の聖母祭が行われました。卒園児（小1年生から高校生）、園児、保護者の方、約500名が参加し、全員がローソクを持ち莊厳な雰囲気の中、星野神父さまのお話を聞き、マリアさまの歌を歌いながら行列を行いました。



ベトナム青年大会の様子（ノートルダム清心中高のホール）

5月17日（土）18時半から、世界平和記念聖堂で、聖母幼稚園の聖母祭が行われました。卒園児（小1年生から高校生）、園児、保護者の方、約500名が参加し、全員がローソクを持ち莊厳な雰囲気の中、星野神父さまのお話を聞き、マリアさまの歌を歌いながら行列を行いました。

ME日本代表の神馬力ツプルの歓迎の挨拶の後、午後1時から、白浜司教、深堀神父、萩神父の共同司式で感謝ミサ。2時半頃から感謝の集いが行われた。ME日本&広島の50年の歩みを振り返ると共に対話のプレゼンテーション、参加者全員のフリートークがあつた。その後飲食・歓談タイム・ダンスの出し物を経て、4時半頃メインバ

に、正義と平和について伊藤神父様ご自身の信条を話されました。

最後に、白浜司教様司式による召命祈願ミサが執り行われました。召命促進委員会にこれからも、召命のため一緒に祈り続けていきましょう。

召命促進委員会

*ベトナム青年大会
広島教区ベトナム青年大会がノートルダム清心中・高等学校を会場として5月4日から5日の期間行われました。

テーマは【信愛と希望】

巡礼者】参加者350名とシスター15名神父10名も参

加されました。



富山 信行・浩子



←ME参加者（祇園教会）

*WWME JAPAN
50周年感謝の集い
in広島の報告

みんなの心に火が灯り笑顔あふれた集いに感謝！

5月31日（土）

「WWME JAPAN 50周年感謝の集い」

が、白浜満司教さまをお招きして、祇園教会で行われた。参加者は総勢46名。

ウイークエンドを体験した司祭や夫婦が広島・福山・岡山から、遠くは奄美・関西・関東から参加、オンライン参加も

あつた。

ME日本代表の神馬力ツプルの歓迎の挨拶の後、午後1時から、白浜司教、深堀神父、萩神父の共同司式で感謝ミサ。2時半頃から感謝の集いが行われた。ME日本&広島の50年の歩みを振り返ると共に対話のプレゼンテーション、参加者全員のフリートークがあつた。その後飲食・歓談タイム・ダンスの出し物を経て、4時半頃メインバ

ナーを次回開催の四国に伝達し、最後はMEソングの「大波のように」を歌つて、5時頃解散した。

ME関西代表

